

子どもの学びを支える学級づくりの一考察

2005年5月27日
芝田 秀樹

1 学校経営の中の学級経営

Q : 「あなたは、隣の学級の経営方針を知っていますか？」

A : 「いいえ！でも、なぜ、知らないといけないのですか？」

という会話をどう思われるだろうか。

ここには、従前の学級王国の考え方が見え隠れしている。実は、学級経営は学校経営と連動しなければ意味をなさない。学級担任の考え方が優先とさえばそれまでである。しかし、眼前の子どもたちを6年間で育てるという考え方に立てば、学級担任の独善だけで学級経営をしてはいけないことになる。

学級の経営方針を学校内外に開く

2 自校カリキュラムと学級経営案

思うように子どもたちの姿が変わらないのは、カリキュラムづくりがなされていなくて起因する。子どもたちは担任が変わるたびに、担任の目をうかがうことが常になっていないだろうか？保護者もこのあたりに学校の不信感がある。

学校で大切にしたい伝統や習慣、文化も、このカリキュラムに織り込んでいくのである。先生に指名されたら、返事をして立つという行為はいつから始めさせるのか、また、校歌は6年生が一番上手なはずがどうして声も小さく元気がないのかということの打開策もこのカリキュラムにいれるのである。潜在的な内容も含めたのがカリキュラムである。

教育課程とカリキュラムの違い

カリキュラムという言葉をよく聞くようになったが、混同されることが多い。教育課程は、あくまでも全体計画や年間指導計画という計画レベルのみであるが、カリキュラムは計画・実践・評価・改善の4つのレベルを含んでいる。したがって、授業研究もカリキュラム研究となるし、学校評価もカリキュラム評価となる。また、カリキュラムには、学校や学級の規範、学習上の約束などの潜在的な内容も含まれる。

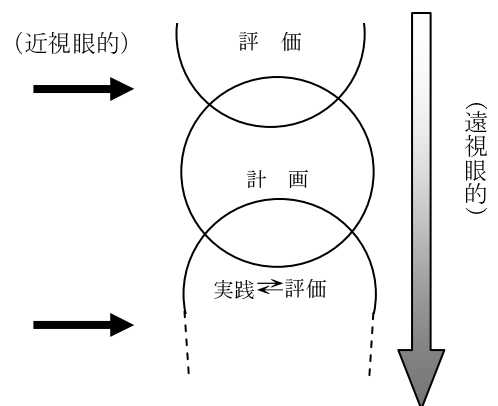
3 この時期の学級経営と学級通信

この時期に何を **じっくり・たっぶり見取る**

- ・1ヶ月を終えて 一学級の目標に向かって動き出しているかー
- ・子ども一人ひとりの学びの姿(事実)のとらえ
(先入観を抜きに)
- ・その子の成長の方向性
- ・支援や指導(目標の軌道修正も視野に)

子どもの生きた情報提供である学級通信

- ・子どもの姿を生き生きと伝えること。
- ・子どもや保護者の担任を知りたいという願いに応えること。
- ・発行する担任の個性を大いに発揮すること。
- ・保護者とともに子どもや教育問題を考える内容を盛り込むこと。



4 学級経営を自己マネジメントする

本校では、昨年度から、自己マネジメント申告書なるものを自作し、学校教育目標の具現化のどのように教職員がかかわっていくか、計画し実践・評価してもらうことにした。これをもとに一人ひとりずつ教頭と3人で、教職員の思いを聞き、支援の方策を練っている。

